

科目名	保育者とことば				担当	長田 真紀		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	—	
必修	—				ナンバリング	Y3402	DPとの関連	2
授業概要	子どもが言葉の獲得過程において、家庭、地域社会、そして保育現場から大きな影響を受けることを十分に認識・理解した上で、さまざまな保育の実践的な場面を想定しながら、言葉の重要性と保育者の適切な言語運用のあり方を考察し学んでいく。これまでの実習の経験等を踏まえた意見交換も行う。							
到達目標 学習成果	子どもの成長における言葉の獲得の過程と意味を理解し、保育者として適切な言語運用能力を身につけることを目標とする。特に、一人ひとりの子どもへの言葉掛け、集団の子どもたちへの言葉掛け、保護者との対話、職場での対話について、実際の事例を踏まえて、実践力を養うことを目標とする。							
授業計画	回	内容						
	1	保育者の言葉	子どもの成長を促す言葉の働きについての解説					
	2	乳幼児期の言語獲得と環境 ①家庭	言葉の獲得における家庭の存在についての解説					
	3	②地域社会	言葉の獲得における地域社会の存在についての解説					
	4	③保育の場	言葉の獲得における保育現場の存在についての解説					
	5	人間関係におけるコミュニケーション	生涯にわたるさまざまなコミュニケーションの力の重要性についての考察とグループでの発表					
	6	言葉によるコミュニケーション	言葉によるコミュニケーションの意味の解説					
	7	子ども自身の内的対話	独り言などの内的対話のもつ意味についての解説					
	8	子ども間のコミュニケーション	子ども間の対話の重要性についての解説					
	9	子どもに対するコミュニケーション ① 個人	一人ひとりの子どもへの言葉掛けについての考察とグループでの発表					
	10	② 集団	集団の子どもたちへの言葉掛けについての考察とグループでの発表					
	11	保護者に対するコミュニケーション	保護者との対話の重要性についての解説					
	12	地域社会でのコミュニケーション	地域社会への関わりの重要性についての解説					
	13	職場におけるコミュニケーション	職場での保育者間での対話の重要性についての解説					
	14	子どもをとりまく環境の変化	環境の大きな変化と今日の問題についての考察					
15	魅力的な保育者	豊かな言葉をもつ保育者についての考察						
評価基準	保育者の専門的力量として、言語運用能力をどう身につけることができたかを評価基準とする。実際の場面を想定し、言葉掛けや対話の方法と、その効果や影響についての考察がどのようにできるかについても重要な評価基準となる。							
評価方法	授業態度 20% その他 80% (発表や頻繁に提出してもらった課題の内容を評価)							
フィードバック 方法	課題は、添削し採点後に返却する。講評も付す							
アクティブ ラーニング	グループワークと発表							
教科書	プリント使用							
参考書	〈改訂新版〉『言葉とふれあい、言葉で育つ』 大越和孝ほか／東洋館出版 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							
履修条件	本講義を受講するにあたって必要となる基礎知識を有し、保育者の用いる言葉は、子どもに大きな影響を与えることの強い自覚をもった上で履修すること。意見交換を積極的に行うこと。なお、頻繁に、課題提出を求める。							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：授業時に提示する資料・文献を事前に必ず読み、理解しておくこと。内容の充実した課題を仕上げて授業に臨むこと。(各回1時間)</li> <li>事後学習：授業で扱われた内容を整理し、添削された課題のさらなる記述・作成を行う。(各回30分)</li> </ul>							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する。2階第17研究室							